

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 558 号	氏名	関谷 悠以
学位審査委員	主 査	工藤 崇	
	副 査	松田尚樹	
	副 査	上谷雅孝	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、チェルノブイリ原発周辺地区の一つであるロシア・ブリヤンスク州における内部被ばくの実態とその現状を調査し、住民の健康リスクを評価しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 1998 年から 2008 年までの長期にわたり、ロシア・ブリヤンスク州クリンシーにおいて、ホールボディカウンターを用いて、住民の内部被ばくを現地において調査測定し、求められた体内放射線量から、十分に検証された方法によって実効線量・50 年預託線量を計算しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、体内放射線量の中央値は 20～500Bq/kg を推移、2003 年まで経時的に減少し、実効線量が 1mSv を超えるものは徐々に減少、50 年預託線量においても、近年では 120mSv (=50 年間で自然界から受ける放射線量の総和) を超えるものはいなくなっていることが判明した。今後の被ばく医療、国際保健医療への寄与が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は被ばく・国際保健医療研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			